あなたも、参加してみませんか

人権・同和問題について

部落差別が現存する状況をふまえ、国は２０１６年に「部落差別解消推進法」を制定し、国や市町村の責務を明確にしました。筑紫野市では、２０２０年に市の「部落差別解消推進条例」を制定しました。

この条例では、部落差別を解消するために教育と啓発を行うことが重要であると、改めて規定しています。そして、これまでの成果を踏まえ、工夫をこらして、さまざまな取組を行っています。

その一つに夏と冬に開催をしている「人権・同和問題講演会」があります。

参加者のアンケートから

毎年、多くの方々が講演会に参加され、人権・同和問題について学んでいます。講演会後のアンケートには、次のようなことが書かれていました。



【参加者からのアンケート（抜粋）】

- □ 様々な人権問題への気づきや学びがありました。前向きに差別問題と向き合えそうです。
- □ 講師の人生にふれ、心がふるえました。講師のお人柄がすてきで本日出会えたことに感謝の気持ちでいっぱいです。
- □ 講演を聞いて「無知ほど怖いものはない」と思いました。正しく知って差別をなくして行きたいです。
- □ みんなが差別されず幸せに過ごすことができる世の中をめざそうと思いました。
- □ 講師の話から、部落差別の過酷さを知りましたが、知らせるから差別はなくならないのではとも思いました。

講演会を通して、たくさんの人が出会いと学びを深め、新たな気づきや疑問など、今後の啓発活動に参考となるご意見を寄せてくれています。

講演会に参加して・・・

私がある講演会に参加した時のことです。この時の講師のAさんは、４年前に97歳で亡くなった母親のことを話されました。

母親は、部落で生まれ育ち、差別による貧しさから日中も働きに出て、小学校に行けず、字の読み書きができない状況になりました。Aさんは、ある親子げんかの時に、そんな母親に対して

「字の読み書きもできないやつが偉そうなことを言うな。」と言ってしまったそうです。

当時、部落差別を知らなかったAさんは、母親が読み書きをできない理由を理解していなかったそうです。

「差別について知っていれば・・・。」と母親に投げかけたこの言葉を後悔し、「差別を知らないと、自分の家族さえも差別する。それが差別の恐ろしさだ。」と参加者に話してくれました。

さらに、講師の方が講演会の中で歌われた曲の歌詞に、私はハッとさせられました。

自分は生きる価値などないと勝手に決めるな
生まれて生きて　ただそれだけで
君は君であるじゃないか
人間で一番大切なものは　いったい何やろう　♪
それは　人を思う気持ちやろう
相手のことを考える力やろう　♩

私は今、「相手が置かれている現実や背景を知ろうとしてきただろうか？」「私自身が自分のことを大切にしてきただろうか？」と、改めてふり返っています。

人権・同和問題講演会に参加してみませんか

今もなお、インターネットやＳＮＳなどで誤った情報や偏見につながる内容が発信されています。「正しく知る機会」である講演会や啓発冊子がなかったら、情報化社会の中で、差別情報がまん延してしまいます。「教えるから差別が広まる」というアンケートもありますが、知らないと差別はなくなりません。

私たちには、差別の現実を知り、よりよい社会に変えていく力があります。

同和問題を正しく知るための初めの一歩として、講演会に参加してみませんか。

